

生活習慣病と 慢性腎臓病 (CKD)

生活習慣病とは毎日のよくない生活習慣が要因となつて引き起こされる病気で、従来は「成人病」と呼ばれていました。よくない生活習慣とはカロリー・脂質・塩分などの過剰摂取(食生活の欧米化)、喫煙、運動不足およびストレスなどを指し、引き起こされる病気として肥満、脂質異常症、糖尿病、高血圧症、脳卒中および心臓病などが挙げられます。

従来の「成人病」とは「脳卒中、がん、心臓病などの40歳前後から死亡率が高くなり、全死因の中でも上位を占める働き盛りに多い疾病」という定義でしたが、成人病の多くは「加齢すれば必ず罹患しやすくなるのではなく、生活習慣の改善によつて予防し得る」という認識のもとに生活習慣病という名称となりました。

高血圧症、糖尿病に代表される生活習慣病は慢性腎臓病(CKD)および透析療法の対象となる末期腎不全の発症リスクを高めるといわれており、逆にCKDは高血圧症の原因ともなります。また生活習慣病の一角を占めるメタボリックシンドロームもCKDの発症率を高めるといふ統計があります。私たちの腎センターを受診されるCKD患者さんの半数にも生活習慣病やメタボリックシンドロームが関わっています。

慢性腎臓病の予防、治療のためには生活習慣の改善が大切であると云えます。

済生会八幡総合病院

腎センター 部長

医学博士 安永 親生